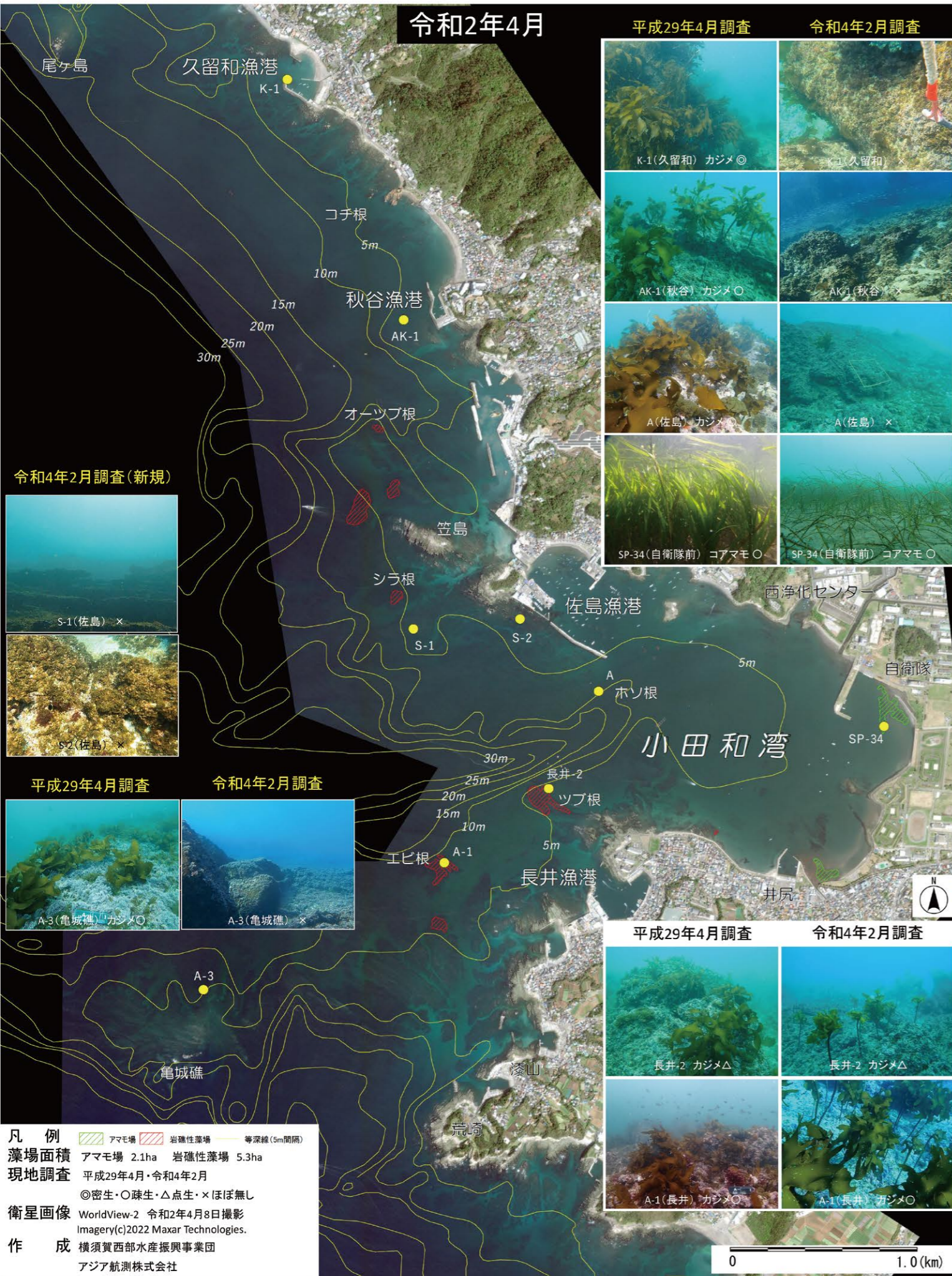


小田和湾周辺の藻場分布の変化

藻場分布調査を横須賀市の小田和湾及び周辺海域で行いました。



1. 調査方法

高解像度の衛星画像(令和2年4月撮影)から藻場分布域を判読し、併せて水中写真撮影による現地調査結果(令和4年1~2月)から、藻場分布図を作成しました。

2. 藻場の凡例

「岩礫性藻場」と「アママ場」の2つに分類しました。岩礫性藻場はコンブ目コンブ科のアラメ及びカジメとし、その分布域は水深10mより浅い海底の岩や礫の場所にありました(写真1~4)。また、アママ場はコモダカ目アマモ科のコアマモとし、分布域は小田和湾奥部の南北2箇所の水深3mより浅い海底の砂地にありました(写真5,6)。

3. 藻場の役割

アラメやカジメの藻場は、ウニやアワビなど藻食性動物の餌や稚仔魚の育成場となるなど、水産上重要な場所です。また、アママ場も魚類の産卵や幼稚仔の育成場としての役割のほか、有機物の分解、窒素・りんなど栄養塩の取り込みによる水質浄化機能があるとされています。

4. 藻場分布の面積

前回調査の平成27年1月では岩礫性藻場が32.7ha、アママ場が4.1haでしたが、今回調査では岩礫性藻場が5.3ha、アママ場が2.1haといずれも減少していました。藻場減少の原因に海水温の上昇や藻食性動物(ウニ、アイゴなど)による「食害」が生じたと考えられています。

※撮影年月：写真1,2,5が令和4年1月、写真3,4が令和4年1月、写真6が令和3年8月



写真1：長井-2 ツブ根のカジメ



写真2：長井-2 ツブ根のカジメの食害跡

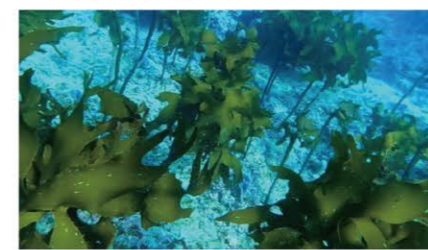


写真3：A-1 エビ根のカジメ



写真4：A-1 エビ根のカジメ



写真5：SP-34 自衛隊前のコアマモ



写真6：井尻漁港東側干潟のコアマモ